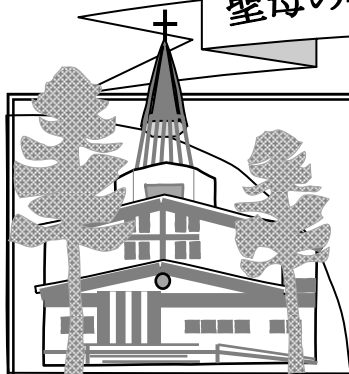




聖母の被昇天お慶び申し上げます

「奉献生活の年」



週報

カトリック 園田教会

B年

2015年

8月15日(土)

No. —



聖母の被昇天 (祭日)

ミサ 9:00 アウディシオ神父

今日の聖歌と祈り

- 入祭の歌 : 典礼聖歌 55 神のみ旨を行うことは
- 答唱詩編 : 「聖書と典礼」をご覧ください
- アレルヤ唱 : 「聖書と典礼」をご覧ください
- 奉納の歌 : プリント ちちよ ひとつに
- 主の祈り : プリント 主の祈り
- 拝領の歌 : プリント すべてのひとの へいわを
- 閉祭の歌 : プリント マリアの賛歌

今日の典礼奉仕者

- 先唱 Sr. 辻家
- 聖体奉仕 細木
- 第1朗読者 岡田(壮)
- 第2朗読者 田口
- 共同祈願・意向担当者 ① 馬場 ② 平田 ③ 丸尾 ④ 市瀬
- 奉納と献金 総務委員会
- 典礼当番 細木
- オルガン奉仕者 石垣

【聖母の被昇天】

8月15日にマリアを記念した記録は、エルサレムに残されていた5世紀半ばのアルメニア語の朗読聖書にあり、マリアの死去を天における新しい誕生として記念していました。

この祝いは、皇帝マウリキウス(在位582年～602年)によってビザンティン帝国内に広まりました。

西方教会では、6世紀のガリア典礼で1月18日にマリアの記念日があり、この記念日は7世紀に「マリアの被昇天」として祝われました。

ローマでは7世紀半ばに、「聖マリアの誕生(Natale Sanctae Mariae)」を8月15日に祝うようになりました。

当初はマリアが死の床についたことから“dormitio”(眠り)と呼んでいましたが、東方教会の影響を受けて、8～9世紀から“assumptio”(引き上げられること)すなわち「被昇天」と呼ぶようになりました。

シリア出身の教皇セルジオ1世(在位687年～701年)は東方教会のマリアの祝祭をローマ教会に導入し、ローマではこの教皇の時代に、8月15日に聖ハドリアヌス教会からサンタ・マリア・マッジョーレ聖堂までの行列が行われました。そして、8世紀の『グレゴリオ秘跡書』では、この日を「聖マリアの被昇天」と呼ぶようになりました。

その後、20世紀になるとマリア信心の影響を受けて、マリアの被昇天を教義として定めることを求める願いが教皇に提出され、教皇ピオ12世(在位1939年～1958年)は1950年11月1日に使徒憲章を發布し、カトリック教会の教義として正式に宣言しました。

(カトリック中央協議会 HP 典礼解説から)

今日の行事

被昇天のお祝い(ミサ後)

聖母の被昇天をよろこび みなさんでお祝いいたしましょう。